

踊場連合だより No.109

発行日 令和3年3月25日

発行 踊場地区連合町内会 会長 菊池賢児 編集 広報委員会 委員長 渡邊こずえ 部数 5200部 印刷 フルヤ特殊印刷 TEL 823-3749

この一年を振り返って

踊場地区連合町内会会長 菊池 賢児



日頃、皆さまには地域活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、5月の連合町内会定期総会も対面でおこなうことができず、文書による表決という初めての経験をしました。

例年おこなっていた地域活動は3密を避けるため、延期・中止が相次ぎ、各自治会町内会におかれましても7～8月の納涼祭もすべて中止になるなど、厳しい状況が続きました。地域全体のメインイベントである「連合体育祭」「おどろば文化まつり」も中止となり、コロナ下での活動に苦慮した1年でした。

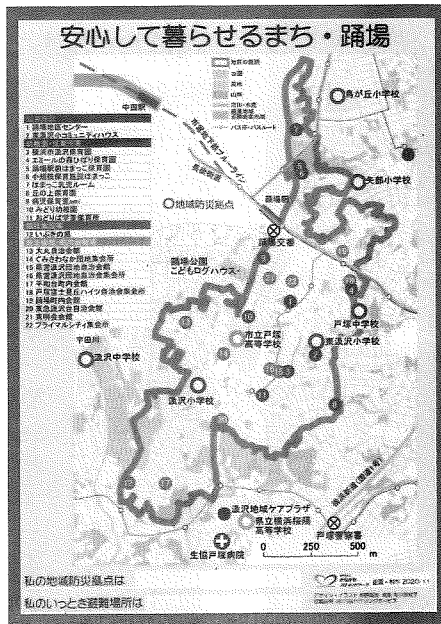
次年度はどのような状況になるか不明ですが、いかなる状況下におきましても、この地域にふさわしいコミュニケーションを図る方策を検討実施して

いきたいと考えています。特に地域時間の過ごし方や、選択肢のある暮らし方が可能な居場所づくりの検討などに注力していきたいと思います。「ふるさと踊場」で安心して暮らせるよう、みなさんと共に支えあいのできるまちの実現を目指しましょう。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

一在宅避難をしよう

昨年末に黄色いパンフレット「その時、3日間を生き延びる！」が連合防災委員会（林 弘一委員長）から全戸に配布されました。発災時に家を失った方は、地域防災拠点（踊場連合には5か所）にて一定期間避難生活を送ることができます。

この地域防災拠点は最低限の水と食料が備蓄されているほか、安否情報や被害情報・救援物資情報の収集と伝達が行われます。また、この拠点は在宅避難している世帯へ自治会・町内会を通して物資や情報を配布伝達する役割も担っています。しかしながら、通常は可能な限り在宅にて、ご近所と協力しあいながら過ごすことが求められることとなります。そのため、最低3日間の備蓄や節約料理ができるような準備が必要であり、合わせて盗難への対応が求められます。自然災害はいつやってくるかわかりません。このパンフレットはそのような状況を踏まえて準備すべきことをまとめているほか、被災時に対応していただける医院のリストも掲載されています。ご家族のみなさんで是非パンフレットに目を通していただき、「安心して暮らせるまち・踊場」を実感してください。



この地域防災拠点は最低限の水と食料が備蓄されているほか、安否情報や被害情報・救援物資情報の収集と伝達が行われます。また、この拠点は在宅避難している世帯へ自治会・町内会を通して物資や情報を配布伝達する役割も担っています。しかしながら、通常は可能な限り在宅にて、ご近所と協力しあいながら過ごすことが求められることとなります。そのため、最低3日間の備蓄や節約料理ができるような準備が必要であり、合わせて盗難への対応が求められます。自然災害はいつやってくるかわかりません。このパンフレットはそのような状況を踏まえて準備すべきことをまとめているほか、被災時に対応していただける医院のリストも掲載されています。ご家族のみなさんで是非パンフレットに目を通していただき、「安心して暮らせるまち・踊場」を実感してください。

（踊場地区連合町内会会長 菊池 賢児）

コロナ下での活動について

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、今まで当たり前であった人と人との交流を遮断することが求められました。そのため活動が制限され、特に人の交流を主目的にした事業や各部会の行事は、中止や形を変えての実施を余儀なくされました。また、高齢者や児童をサポートする活動等はコロナ対応をして安全を図りながら慎重に実施されました。コロナ感染の拡大・非常事態宣言の発令など、状況をみながら対応し、できるかどうかを判断しながらの活動でした。

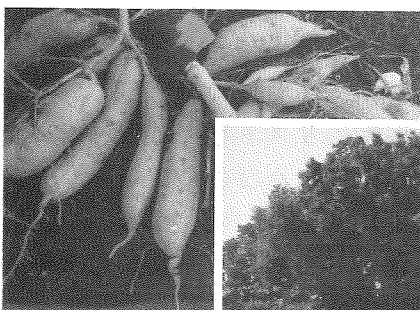
(社会福祉協議会会長 浜野 俊一)

青少年指導員の活動

さつま芋掘り

10月25日コロナ禍の中、密を避けてできるイベント、さつま芋掘りを行いました。70名の募集でしたがお断りするのは酷との考えより100名分の株を用意していました。ところがなんと120名の申し込みがあり、その場で希望者にお待ちいただき、農園の方に電話し20名分追加が可能か問い合わせたところ快諾いただきましたので120名全員参加できることになりました。当日は20名前後を30分間隔で6回に分けてのご案内とし、掘る時もグループとグループの間隔を2m以上確保しました。皆さまが楽しみにしていらした豚汁大会は密が避けられないので中止とさせていただきました。

(青少年指導員 新倉 卓)



社会福祉協議会の活動

ミニクリスマスコンサート

おどりばふれあいカフェの活動

コロナ感染が始まり、昨年3月からカフェの中止を余儀なくされました。三々五々に来て、コーヒーやケーキと一緒に会話を楽しむカフェは再開のハードルが高く、コロナ禍の中でのやり方をボランティアの方たちと模索していました。10月の会合で、飲食やおしゃべりをしなくても楽しめるクリスマスコンサート(12月19日)にしました。その後、コロナの状況が悪くなり、非常事態宣言の場合までを考え、複数の対応を用意して当日に備えました。コンサートの事前申し込みで定員の半分に抑えるなどのコロナ対策をおこない、換気を十分おこなうためホッカイロも配りました。みなさん待ち望んでいたようで、受付開始から数時間で予約がいっぱいになりました。当日は天気も良く、金澤さん(平和台)の弾く心地よいギターの音に会場が包まれ、みなさん嬉しそうに聞いていました。そのうち何曲かは、隣の人に聞こえないぐらいの歌声でギター演奏に合わせてマスクをしたままつぶやくように歌いました。みなさんそれでも歌を楽しんでいる姿が印象的でした。

飲食が出来なかったのでお土産は、ボトルコーヒーとお菓子・文房具に、ボランティア手作りの手芸品としました。アンケートではコンサートを楽しまれた事と、ふれあいカフェ再開を望む声が多く、コロナ感染が落ち着き、早く再開できたらと考えています。

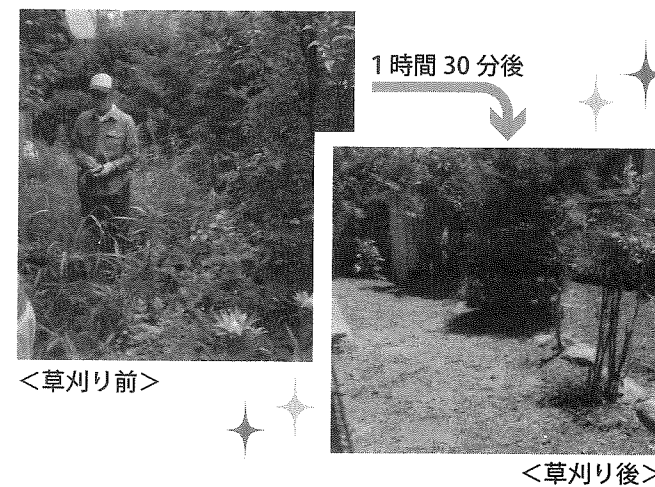
(社会福祉協議会会長 浜野 俊一)



ちょこっとボランティア

コロナ禍の中でも年間を通して活動は継続してきました。ただし、緊急事態宣言時は、ゴミ出し・買い物・電球交換など生活の基本に関わる短時間の活動に限定し、庭仕事や病院の付き添いなどは休ませていただきました。コロナが一時期落ち着いたかに見えた6月ごろから、それまで我慢(遠慮?)されていた方々からの依頼が急増し、よく茂った庭の草取りの活動が例年になく多くて、メンバーは汗を流しました。メンバーの高齢化もあり、庭仕事は一回の活動人数を増やして長くても1時間半程度で終わるように調整しています。今年度2月までの依頼件数は約400件。既に昨年度の393件を超えています。少しでもお困りごとのある地域の高齢者の方々にお役に立っているならうれしいことです。

(社会福祉協議会 坪島 博子)



<草刈り前>

<草刈り後>

ふれあい昼食会

例年、手作りの昼食をメインに、汲沢ケアプラザのお話やクイズ・人気の音楽レクリエーションというプログラムで楽しんでいただけてきましたが、コロナには勝てず、7月に年度内のすべての会を休止することに決断しました。ただし、民生児童委員協議会で検討し、今年度はせめてものお楽しみとして参加者の皆さまにお菓子と除菌シートをお配りすることにいたしました。

通常、昼食会は希望者のみの参加ですが今回はできるだけ多くの方々に心とむひとときを、と考え民生委員が担当するすべての皆さまにお配りしました。

9月：東明会・新明会・くみさおハイツ・プライマルシティ・東急・明和会(5・7月予定でした)
10月：大丸・ぐみさわなか団地
11月：踊場・富士見が丘ハイツ
1月：平和台
3月：汲沢団地・平台

上記のとおり実施いたしました。

(社会福祉協議会 坪島 博子)

民生児童委員の活動

昨年の初頭より新型コロナウイルスが蔓延し、軒並合が中止になりました。非常事態宣言が出されて動きが取れなくなる中でも、お一人暮らし高齢者宅の見守り活動を止めるわけにはいきません。私たちが絶対感染者になってはいけないと肝に銘じ、各自が工夫を凝らし電話で安否確認をしたり、「お元気ですか」のチラシを配りながらインターホン越しにお話したり、それとなく家の周囲を見たり雨戸の開閉やポストを確認したりしています。

毎年9月に開催している「民生児童委員と友愛員さんとの研修・情報交換会」をこのコロナ禍でどうするか検討を重ねた結果、開催することに決定しました。この時点で考えられるあらゆる感染防止策を立てました。まず場所をいつもの会館から地区センターの体育館に替え、参加者もマスクの着用で人数も半分とし、椅子もソーシャルディスタンスをとり配置。講師の歯科医の女医先生には、壇上からスライドを使って「口腔ケアの大切さ」について講演していただきました。みなさんから「とても良かった、参考になった」と大好評でした。見守り活動はずっと続けていきます。今後とも地域の皆さまのご協力をよろしくお願いします。

(民生児童委員 林 万里子)



ひよこクラブの活動

新型コロナウイルスの感染対策により、踊場エリアの子育てサロン「ひよこクラブ」も昨年3月から自粛を余儀なくされ、しばらく中止の月が続きました。再開の時期を探りながら、9月から令和2年度の活動を始めました。以前は申し込み不要でしたが、定員を設け完全予約制にしました。

そして、検温、手指の消毒、除菌に換気、ソーシャルディスタンス。参加されるお母様方はみなさん快く応じて下さいますし、お子さん達も今ではすっかりアルコール消毒の「おててスリスリ」も上手にできるようになりました。緊急事態宣言が出されている時期でもめげずに楽しみに参加される親子と接する度に、お子さんの成長の“今”と一緒に見守り、お手伝いしてあげたいと思わずにはいられません。1日も早い収束を願いつつ、感染予防の取り組みを徹底しながら、令和3年度も楽しい「ひよこクラブ」を運営してまいります。

(主任児童委員 久野 悦子)



おめでとうございます

～東明会の和光さん
瑞宝双光章受章～

平成5年3月、領家中学校を最後に38年間の教職を終え、第二の仕事として「郷に入っては郷に従え」と住民票を携えて、3年間「横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園」の園長として、地元の住民の方々との交流を密にした学園経営に当たらせていただき帰浜いたしました。その後1年間は泉スポーツセンター、さらに半年間は港南台地区センターの館長としてその任に当たらせていただきました。



そしてこの第二の仕事が終わった後、平成11年に東明会副会長の役を仰せつかり、その後は監査や顧問役を22年間続け現在に至っております。この帰浜後はコミュニティハウス等からの要請で、絵手紙教室等の指導にも携わって参りましたが、これらが健康保持の要になっていることを深く感謝する次第です。

この度、令和2年度の高齢者叙勲に際しましては、はからずも瑞宝双光章受章の栄に浴し、身に余る光栄に感激致しております。今後はこの栄誉に恥じることはないよう、実のある日々を過ごしたく思っております。

(元領家中学校校長 和光 弘)

予断なき余談(コラムのようなもの)Vol.10

戦力の逐次投入は愚かなことです。戦局を過小評価し適切かつ十分な戦力を投入しなければ勝てる局面を逸します。100対90で開戦し不利が進み100対70まで戦力が低下した場合、消耗した20を何回投入しても無駄になるばかりです。また、開戦時に100の相手に対し20投入し負けたから40投入、60投入、80、、、これも愚かとされる戦術です。100を相手に勝利するには、120とか150、あるいは200を一挙に投入すべきです。まさにライオンはウサギを…と言うアレ「獅子搏兔」(ししはくと)だと思います。と、ここまで読んでこられた方の大半は筆者が何を言いたいかわかりになったのではないのでしょうか、そうです新型コロナウィルスに対する政府の対応です。長い緊急事態宣言で経済が疲弊してしまうのが怖いのでしょうか。でもここで手を緩めては3回目の緊急事態宣言が目に見えています。そして過去2回の宣言、補償が無駄になってしまいます。ここはあらゆる手段でコロナを完膚なきまで叩きのめすべきです。この記事は2021年2月中旬に書いています、以前は「逐次投入」をweb検索すると旧日本軍のガダルカナル戦のことが表示されていましたが、先ほど検索したら筆頭にコロナ絡みのことが出てきました。同じことを考えている方ってけっこういらっしゃるのですね。〇〇さんお願いします、夏祭りやらせてください。神輿出させてください。

T.N.

第4期踊場地区ハートプラン

地域福祉保健計画を戸塚区ではハートプランと名付けています。ハートプランは5年間で1期とし、第3期計画が令和2年度(2020年)で終了し、4月から第4期の5か年が始まります。戸塚区全体では「とつかハートプラン」として作成が進んでいますが、各連合町内会単位で作成する地区別計画(私たちの住むエリアは「踊場地区ハートプラン」と呼びます)は現在作成進行中です。踊場地区ではエリア全体の活動計画(統一スローガン:安心して暮らせるまち・踊場)を立て、その中で優先的活動を行う事柄をハートプランの骨子としています。第3期は13項目の地域経営計画のうち5項目をハートプランの活動方針としました。第3期では全容をパンフレット化して全戸配布しましたが、要点を再掲すると、以下の5点でした。

●取り組み

1. 高齢者とやさしく支え合い、ふれあう活動の推進
2. 地震火災被害を防ぎ、防災意識の共通認識を高める
3. スポーツ活動などを通じ、地域ぐるみの健康維持促進を図る
4. きれいなまち、みどりのあるまちを目指し、踊場らしい風景づくりを行う
5. 地域活動情報の共有化を図る

第4期では、引き続き第3期での活動方針を継続する予定です。そしてさらに社会情勢に鑑み、特に具体的な方向性を追加する予定となっています。概ね以下の項目で検討中ですので、皆さまにお知らせいたします。

●計画目標 ～みんなで楽しく暮らす～

みんなで協力し合い、笑顔で暮らせるまちづくりをめざします。

●具体的活動方針

- ① ここにも居場所
(みんなで連携できる新たな活動の実践)
- ② みんなで防災・みんなで防犯
(震災時での助け合い強化と防犯活動の充実)
- ③ 誰にもやさしいみちづくり
(事故防止や歩きやすい道づくりの検討)

(踊場地区連合町内会会長 菊池 賢児)

お知らせ

来年度の活動計画が立てられないため「今後の行事予定」の掲載もできません。「イベント情報紙」も休刊します。ご了承ください。しかし、十分なコロナ対策を検討をして活動している団体もあります。開催の際は、回覧・掲示板でお知らせします。

編集後記

地域の活動は、人と人とのふれあい、コミュニケーションが一番であるにもかかわらずコロナウィルスによりそれが一番の拡大の原因になってしまう、、、なんともやりきれないです。

委員長: 渡邊 こそえ	委員: 新倉 卓	石田 久乃
副委員長: 浜野 俊一	牛頭 あゆみ	伊藤 市郎
顧問: 猪狩 秀雄	白土 麻理子	渡田 宏